

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
10代の献血率が4.5%、20代の献血率が4.7%まで増加させる	新規献血者紹介強化	継続	大学、専門学校生	4月から6月	延べ20回	各大学、専門学校 当県では、10代献血者率4.4%、20代献血者率4.0%（平成21年度実績）となっている。これは、献血推進に係る新たな中核自治体（献血推進2044）を上回っているが、更に上昇させるための対策として、若年層向けに新規献血者を紹介していたが、紹介者および新規献血者に対してポイント制度のボーナスポイントも付加する。
10代の献血率が4.5%、20代の献血率が4.7%まで増加させる	お礼状送付	継続	10代、20代の新規献血者	4月から3月		新規に献血協力した10代、20代の方にお礼状を送付し再来を促す
10代の献血率が4.5%、20代の献血率が4.7%まで増加させる		継続	大学、専門学校生	4月から1月	延べ35回以上	各大学、専門学校 献血推進の多い（交付が50名以上）大学、専門学校への複数回献血が平成22年度は延べ31回のところ平成22年度は35回以上の献血を依頼する
10代の献血率が4.5%、20代の献血率が4.7%まで増加させる	学生ポイントIPカード	新規	大学、専門学校生	4月から3月		各献血ルーム 指定施設での学生献血者数が減少しているため、通常のポイントカードとは別に学生のためのポイントIPカードを発行し学生のみの特典と設けて再来協力を促す
10代の献血率が4.5%、20代の献血率が4.7%まで増加させる	献血セミナー	継続	高校、大学、専門学校生 事業所新規採用者	4月から1月	10回以上	各会場 高校から大学に対しては、文書でセミナー実施の案内を送付し若年層に対する献血セミナーを実施する。
新規献血協力学校を1校以上開拓する		継続	大学、専門学校生	4月から3月	1以上	大学、専門学校 新規に開拓する大学、専門学校や、まだ献血を実施していない学校（合計5校ほど）に対して献血受入れの依頼をする

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
参加者300名以上	献血キッズスクール	継続	県内小学生 およびその保護者	8月	7回	血液センター 県内の小学生対象にキッズスクールを開催し保護者同伴の元、血液センター見学等、親子で献血について学んでもらい将来の献血者確保ならびに後継者の方への献血を訴える。
60歳以上の献血者を3%増加させる		新規	60歳以上の依頼対象者	4月から3月		各献血会場 60歳以上の依頼対象者や、複数献血クラブ会員に対して献血依頼を年間通じて行い協力者を3%増加（約110名）させる。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
新規献血団体50団体確保	新規団体強化	継続	献血協力団体	4月から3月		富城県内献血団体 継続的に協力できる新規献血団体の確保を行う
15団体確保	ルーム協力団体確保	継続	献血協力団体	4月から3月		献血ルーム 献血ルームにて定期的に協力いただける団体を確保する

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
複数回献血クラブ会員1,000人増	複数回献血者確保	継続	依頼対象者	4月から3月		対象による複数回献血者確保 依頼対象者に対して、複数回献血クラブ会員登録依頼を対面にて行う
複数回献血クラブ会員1,000人増	複数回献血者確保	継続	県内献血協力者	4月から3月		献血会場での複数回献血クラブ会員登録強化 献血会場に複数回献血クラブ会員登録推進（サイトランナー）を配置し登録手順を簡素化し、登録しやすい環境を作る
複数回献血協力者17,500人確保	複数回献血者確保	継続	複数回献血クラブ会員 依頼対象献血者	4月から3月		メールやハガキ、電話による献血要請 平成21年度17,001人の複数回献血協力者を17,500人にするため、複数回献血クラブ会員にはメールで、その他の依頼対象者については、ハガキや電話での献血依頼を継続的に行う。

⑤ その他

平成23年度の目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
休日の献血を25%から33%にする（年間約10台増）		継続	県内献血者	4月から3月		休日の献血を促進し休日記事を増やす 一環あたりの協力者が多い休日の複数献血会場に記事するにあたり、市町村協議会、大型ショッピングセンター担当者に理解を求め、休日しか献血できない会社員等の協力者確保を目指す。

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の目標目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(採血に際すること)
参加者200名	若年層献血セミナー	継続	高校、大学、専門学校生	4月、7月、8月、12月、1月	5回	血液センター及び学校	献血についてのセミナー及び施設見学を開催し、献血の意義や献血期間の正しい知識の普及啓発を行う。 資料としては、「愛のかたち献血」及び「献血と輸血用血液」スライド、ビデオ上映等を実施予定。
参加者100名	献血出張講座	新規	小、中、高校生	7月～11月	5回	学校	若年層へ献血の意義や献血期間についての正しい知識の普及啓発を行う。 それぞれの年代に合わせたスライド資料を作成し普及啓発に努める。 小中学生であれば献血の意義をクイズも行う予定。
1種献血たり赤血球80単位以上	大学献血への进军	継続	大学生	4月～12月	6回	大学構内	大学構内での献血バスの設置を行い献血の普及啓発を行う。 平成22年4月～12月の実績は、1種献血たり797単位であるため、23年度は、実施時期等も検討を加え、80単位以上を目標としている。
1種献血たり赤血球80単位以上	学生ボランティアと連携した献血実施(少年・献血、クリスマス献血)	継続	高校、大学、専門学校生	7月～8月、12月	5回	街頭、大規模スーパー等	若年層の学生が献血を呼び掛けることにより年代別の献血意識向上を行う。 学生が企画等も行うため楽しく献血に参加できるとともにボランティア学生の意識も高めていただけたため献血の輪が広がる。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の目標目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(採血に際すること)
参加者100名	青少年献血ふれあい事業	継続	小、中、高校生	5月、7月～8月、10月	3回以上	血液センター	夏休み等に親子施設見学などをを行い献血の意義や献血期間の正しい知識の普及啓発を行う。 「愛のかたち献血」及び「献血と輸血用血液」スライド、ビデオ上映等を実施予定。 さらに施設見学実施後に献血クイズ等も実施予定。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の目標目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(採血に際すること)
10社以上	新規献血協力企業等の確保	継続	献血協力団体等	4月～3月		福島県内	県、市町村及び献血協力団体との連携を強にし、新規協力団体の開拓を行う。
5社以上	休眠献血団体等への働きかけ	継続	現在休眠中の献血団体等	4月～3月		福島県内	現在休眠献血団体等へ過去における実績等を検討し今後の献血協力を依頼する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の目標目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(採血に際すること)
応答数1000名以上	メールによる協力要請	継続	複数回献血クラブ会員	4月～3月		メール配信	成分献血のできる方を中心にメールでの献血協力要請を行う。 平成22年12月以降で、メール会員数2,824名の登録があるが血小版の型別不足状況に依りての協力要請を行うこととしている。
応答数1000名以上	ハガキ・電話による要請	継続	前回400mL献血協力者	4月～3月		ハガキ・電話による要請	型別で不足が危ぶまれる場合に献血協力要請をハガキ及び電話で行う。 特に土、日等に対応している大規模スーパー献血所に血液型別の不足状況に応じて協力要請は対応の発注を予定している。
複数回メール会員年間500名以上の増加	会員専用リーフレット作成	継続	400mL献血、成分献血協力者	4月～3月		リーフレット配布	400mL献血及び成分献血協力者で複数回献血クラブ未加入の方へリーフレットを20,000枚以上配布し加入のお誘いをする。 平成22年12月現在の会員数は、2,894名の登録があるが、500名以上の増加を目標としている。

⑤ その他

平成23年度の目標目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(採血に際すること)
鑑定施設で500名以上の協力	成分献血要請のダイレクトメール発送	継続	成分献血可能な方	4月～3月	12	毎月1回誕生日を向かえる成分献血者へDMの発送を行う。	成分献血協力の方で誕生日を迎える方へDMの発送を行う。
1日50名以上の協力	継続	献血可能な方	7月～8月、12月～1月		イベントの実施	献血ルーム周辺のイベント等を実施するとともに広報強化を行う。 現在検討している内容としては、期間限定特別記念高プレゼントを計画している。 7月～8月はカップアイス、クリスマスは、マフィン等のプレゼントを予定している。	

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

東城東 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
若年層献血者(10代~20代)を27%にする (平成21年度:24.9%)	献血セミナー	継続	高校大学生及び一般	9月-10月-11月	5回	学校及び血液センター 映像教材(ありがとうっていいい)を併せて、血液に関するパワーポイントを使用し、献血に関するセミナーを実施する。
	若年層キャンペーン	継続	小学生~一般	8月-1月-2月	3回	献血会場及び献血ルーム 学生ボランティア主催で実施し、クイズ及びゲーム等を行い献血の啓発を図る。
	夏休み親子献血	継続	小中学生	8月	2回	血液センター 映像教材(ありがとうっていいい)を併せて、血液に関するパワーポイントを使用し、また、クイズや車展等の親子体験等を行う。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
20代の献血者を18%にする。 (21年度:16.4%)		新規	20歳	1月~2月		各献血ルーム 県と連携で実施。ルーム近隣市町村の成人式等でチラシを配布し各ルームでの協力を依頼する。 30,000枚作成し、20ヶ所の成人式会場に3,000枚配布。また、大学等でも配布する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
新規事業所を50ヶ所を開拓する。	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月~3月		各事業所等 従業員数100名以上の全リスト及び市町村役所等から情報で新規事業所の開拓を行う。
休眠状態の事業所20ヶ所を開拓する。	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月~3月		各事業所等 過去の団体名簿を再調査し休眠状態の事業所の開拓を行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
メールによる献血要請を実施する。 目標:応答率 20%	複数回献血協力者確保対策	継続	登録者	血液不足時		血液不足時に定期的に、協力者を依頼する。 メール会員約4,000人に緊急時に依頼する。
ハガキによる献血要請を実施する。 目標:応答率 20%	複数回献血協力者確保対策	継続	献血可能者	4月~3月		献血センター等に協力者を依頼する。 約1年間で約100名及び約4ヶ所を献血協力者に協力依頼をする。 4月~12月までに約8,747件に発送し、応答率10.1%
実施場所(企業・団体)の年間回数の増加 目標:10ヶ所	複数回献血協力者確保対策	継続	年1回~2回の献血実施企業及び新規実施事業所	4月~3月		複数回献血者を依頼する。 年1回~2回の献血実施企業及び団体や新規事業所等に複数回献血要請を実施する。 特に、新規事業所を中心に半年後の献血実施を依頼して行く。(12月現在10ヶ所済)

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
大規模献血の予約を推進する。 予約者:目標を2,000名		継続	ルームでの献血実施者	4月~3月		各献血ルームにおいて、献血終了後及び電話で予約を受け付ける。22年度途中より休日にも実施し多くの方々の参加を促した。(12月現在で1,121名)
電話及びハガキによる依頼を実施する。 応募者:1,500名を確保する。		継続	ルームでの献血実施者	4月~3月		各献血ルームにおいて、8ヶ月前以上献血を実施していない献血者にハガキ及び電話依頼を実施する。100名くらいを確実に、毎月実施する。電話依頼:1,295件 協力者:276名 応募率:21.3% ハガキ依頼:3,787通 協力者:1,071名 応募率:28.2%

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

東城東 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
100人以上	若年層献血セミナー事業	継続	10代後半~30代前半の若年層	4月~3月	7回以上	東城東赤十字血液センター会館 地元若年層学生献血推進委員(かけはし)など学生ボランティア(4校)に別々4月~3月で7回以上の献血セミナー、献血者の献血啓発の機材提供、「八月の二重奏」上映など映像教材を用い、新卒生を支援。
5,000人以上	大学・短大・専門学校等での献血	継続	18~22歳の学生	4月~3月	50回以上	県内対象校18校 学生ボランティアを通じて学校の要請を基に県内へ献血車を導入し、若年層を確実に実施している。平成22年度県内対象校18校のうち16校で献血を実施し、4月~12月の実施は4,297人、1月~3月までの見込みは500人。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
120人以上	青少年等献血ふれあい事業	継続	小、中、高校生(保護者含む)の若年層	4月~3月	10回以上	東城東赤十字血液センター会館 親子参加型のAED講習と献血見学、献血クイズなどを併せて実施
5,000人以上	高等学校献血	継続	16~18歳の高校生	4月~3月	80回以上	各高等学校 高等学校の生徒を対象に希望者を募り献血を実施。関係団体を通じて学校に協力を依頼している。平日授業時間を削り、献血を実施している。ほぼ学校行事の一つとして実施してもらっている。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
20社	献血協力団体確保対策	継続	献血実施企業・団体	4月~3月	20回以上	各企業・事業所等 複数回献血協力企業・団体の開拓。「愛のかけら」レフレット等を用い献血協力依頼する。
20社	休眠団体への働きかけ	継続	事業所休眠小等により献血実施できなかった企業・団体	4月~3月	20回以上	各企業・事業所等 休眠団体へ再度献血実施の要請をする。「愛のかけら」レフレット等を用い献血協力依頼する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
応募者数(実効力者数)500人	献血要請対策	継続	複数回献血クラブ会員、会員数1,000名	4月~3月	10回	要請メール配信 血液不足時に会員に対し、献血協力依頼する。月1回配信、年間12回配信依頼する。
応募者数(実効力者数)500人、もしくは2回以上の複数回献血率対前年比3%増	要請はがきによる献血要請対策	継続	一定期間献血可能者	4月~3月	10回	要請はがき発送 血液不足時や複数回献血等に献血協力依頼する。平成22年度は10,000枚を送付予定。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
上記④複数回献血者確保対策に含む	はがきメールによる献血要請	継続	400ml献血可能者	4月~3月	10回	メール配信-はがき併送 各献血会場での400ml献血実施要請。
全血400ml(献血比率76.0%)	400ml献血推進キャンペーン	継続	400ml献血可能者	4月~3月	10回	400ml献血推進ちらしポスター等90枚作成・配布 200企業(団体)、90高校へ献血依頼チラシなどを配布し推進を図る。400ml献血以外の複数回献血を企業実施。
高等学校献血時の400ml献血率今年度比3%増	高等学校献血にむける400ml献血推進	継続	400ml献血可能者	4月~3月	2回	校長会や教職員研修等 学校及び教職員研修等に、献血基準改正に伴う400ml献血可能年齢引き下げのちらしなどを発行・推進予定。

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の目標目標	事業名	所属・組織	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定実施	内容(詳細に記載すること)
60名以上の参加	献血セミナー	継続	若年層会員	8月	1回	天理教群馬教団支庁	天理教の若年層を含めた会員への血液や献血についての説明で献血を身近に感じてもらい、そして必要症を把握して、献血への参加及び普及啓発への参加への参加呼びかけを要する。献血教材、パワーポイントを使用
500名以上の参加	献血感謝デー	継続	若年層から高齢者まで	11月	1回	大型の商業施設	日頃の献血への感謝をこめて、献血感謝デー対象年齢を超過した方、若年層で多量献血者に対しての感謝状贈呈や、学生ボランティアによる献血啓発、献血者グループ会員の募集や献血啓発、チャリティーランニングなど幅広い大勢の方に献血に関心を持ってもらう。献血感謝デーのニュースリリースの発信及びDM及び献血者グループ会員の参加呼びかけの提供を実施
500名以上参加	献血セミナー	継続	若年層	2月	1回	公的な施設	若年層が参加する献血啓発イベントで、献血についてのセミナーを開催し献血への関心を高める。献血教材を使用。献血感謝デーのニュースリリースの発信及びDM及び献血者グループ会員の参加呼びかけの提供を実施

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の目標目標	事業名	所属・組織	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定実施	内容(詳細に記載すること)
100名以上	春の献血ふれあいキャンペーン	継続	小学生とその保護者	4月	1回	県立ぐんまの森	移動献血会場で、青少年向けのアトラクションを展開し、献血啓発の普及と推進者への献血参加の呼びかけ。献血感謝デーのニュースリリースの発信及び献血者グループ会員の参加呼びかけの提供を実施
200名以上	春の献血ふれあいキャンペーン	継続	小学生とその保護者	5月	3回	県立群馬こどもの国	移動献血会場で、青少年向けのアトラクションを展開し、献血啓発の普及と推進者への献血参加の呼びかけ。献血感謝デーのニュースリリースの発信及び献血者グループ会員の参加呼びかけの提供を実施
60名	夏休み親子体験教室	継続	小学生と保護者	7月～8月	3日間/1回	血液センター	献血や献血についての説明や献血センターの施設見学を行い、献血を身近に感じてもらい、そして必要症を把握して、献血への参加及び普及啓発への参加呼びかけを要する。献血教材、パワーポイントを使用
500名以上	サッカーJ2ザスパ草津と連携し献血PR活動の実施	継続	若年層とその保護者	10月	4回	献血者グループ会員の参加呼びかけ	若年層に人気の地元のサッカーチーム(ザスパ草津)と連携し選手の協力でサッカーの自慢プレゼンや、移動献血会場による献血推進の場にて、選手による広報活動やJ2のオンラインアプリなどでの献血啓発を実施

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の目標目標	事業名	所属・組織	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定実施	内容(詳細に記載すること)
目標30社(団体)	献血協力団体及び推進団体の増加対策(休載を含む)	新規	未実施の企業及び団体	適年	随時	各団体及び事業所等	個別説明会や広報資料により献血啓発活動を行い、献血推進団体及び事業所の増進を図る(休載時等も随時実施を含む)

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の目標目標	事業名	所属・組織	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定実施	内容(詳細に記載すること)
応募者数(実効力者数) 12,000以上	複数回献血協力者確保対策	継続	前年度から一定期間未実施献血者	適年	約48回		定期献血会場を基本に、年間を通じた定例化した血液確保が可能な会場を中心に、1回に約500名のDMハガキを発送し複数回の献血協力確保を図る
応募者数(実効力者数) 12,000以上	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血者グループ会員で前年度から一定期間未実施献血者	適年	約48回		定期献血会場で、年間を通じた定例化した血液確保が可能な会場を中心に、1回に約1,500名の電子メールを発送し複数回の献血協力確保を図る
50名以上 / 1回	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血者グループ会員及び前年度から一定期間未実施献血者	2月～3月	約60回		複数回献血者グループ会員及び前年度から一定期間未実施献血者への献血協力確保を図る。県内23市の献血ルームで日本フレックローバー協会メンバーによる献血アドバース並びにリラクゼーションの実施。特に2月 3月の献血協力者の増加を図る。

⑤ その他

平成23年度の目標目標	事業名	所属・組織	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定実施	内容(詳細に記載すること)
6000名/年間	複数回献血小販成分献血者確保対策	継続	平日の献血ルームでの血小販成分献血者	適年			献血ルームで献血終了後の献血時に血小販成分献血の必要症や有効期限などを把握し、次回献血の申し込みや予約の受付を受ける。また、日々需要が多い場合や型別変動等が発生した場合は、複数回献血者にて電話連絡で予約を確保する

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

埼玉県 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
参加者1,000人を目標として献血出陣訓練を実施	若年層献血セミナー	継続	小、中、高校、専門学校生等	年間	1	実施学校数	内容(詳細に記載すること)
子供の参加400人を目標として献血キャンペーンを実施	若年層確保対策	継続	幼児、児童とその父母	未定	1	ショッピングセンター	献血センターが率先で開催し、血液の知識から献血の重要性まで講演を行う。
参加者500人を見込んだクリスマス献血キャンペーンを実施	若年層確保対策	継続	若年層	12月23日	1	駅前広場他	子供たちにお父さん、お母さんの献血する姿を見てもらい、献血を身近に感じてもらうことにより次世代の献血者を育てることを目的とする。
年間高校生献血14,200人を目標として高校生献血を啓発	若年層確保対策	継続	高校生	上半期	20-30	高等学校	献血推進協議会に対し、県、市町村、血液センター3者で連携し、校内及び校外での献血参加の普及
	若年層確保対策	継続	高校生	2月-4月	1	各献血ルーム	県内の各高等学校にポスターとチラシを配布し、高校生への献血を推進する若年層献血キャンペーンを実施する。
	若年層確保対策	継続	高校生	4月-8月	1	各献血ルーム	県内全高校1年生にカードを配布し、高校生への献血を推進する若年層献血キャンペーンを実施する。また、献血ルームには、サイトサインを設置し、新規献血者の募集を促す。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
年齢で60歳以上の献血11,000人を目標とし確保	高齢層の献血者確保	継続	60歳-64歳	8月-9月、1月-2月	2	献血ルーム	60歳-64歳献血者で60歳から64歳までに献血の無い方に、献血後及び60歳まで献血を継続いただけることの周知を図る

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
献血協力企業の79団体の獲得を目標とする	献血協力企業活動推進事業	継続	団体・企業	年間を通して			内容(詳細に記載すること)
新規献血団体30団体の獲得	献血協力企業活動推進事業	継続	団体・企業	年間を通して			既献血協力団体に対して県、市町村、血液センターの3者により新規開拓を行う。また、献血協力企業からの新規献血団体の紹介をいただく。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
年1回献血実施団体のうち10団体を年2回以上の実施にする	複数回献血協力者確保	継続	団体・企業	年間を通して			内容(詳細に記載すること)
							県、市町村との連携のもと献血推進協議会の協力を求める。
							血液の需要増加状況のグラフ、資料を基に、献血協力団体に説明を行う。

⑤ その他

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
							内容(詳細に記載すること)

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

千葉県 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
10代の新規献血者を5%増やす	献血セミナー	継続	高校生	9月-12月	3	高等学校	献血センターが率先で開催し、血液の知識から献血の重要性まで講演を行う。
	献血啓発活動と啓発事業	新規	高校生	年間	5	高等学校	献血センターが率先で開催し、血液の知識から献血の重要性まで講演を行う。
県内応募学校数を10%増やす	献血啓発ポスター・啓発事業	継続	中学生・高校生	5-9月	1		中学生・高校生を対象として、献血啓発ポスターを寄贈し、入賞作品を使った献血啓発活動を行う。(グッズの製作、広報への掲載)
10代の新規献血者を5%増やす	血液センター広報誌製作	継続	主に高校生・大学生	年間	4		献血センターが率先で開催し、血液の知識から献血の重要性まで講演を行う。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
50名以上の参加	小学生学習会(青少年等献血ふれあい事業)	継続	小学生とその保護者及び家族	7-9月	1	未定	夏休みを利用して小学生向けの献血セミナーや献血や輸血に関する知識の習得や体験を通じて、献血に理解を深めていただく。
5校以上の参加	血液センター体験	継続	主に中学生	7-12月	5	血液センター献血ルーム	中学生を対象とし、献血センターが率先で開催し、血液の知識から献血の重要性まで講演を行う。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
即時献血可能な企業数の確保10団体	即時献血可能な企業数の確保	継続	事業所・大学等	年間			内容(詳細に記載すること)
新規献血協力団体40団体の増加	献血協力企業活動推進事業	継続	事業所・大学等	年間			既献血協力団体に対して県、市町村、血液センターの3者により新規開拓を行う。また、献血協力企業からの新規献血団体の紹介をいただく。
献血ポスター・啓発企業79団体	献血啓発ポスター製作	継続	各事業所・推進団体等	年間			献血啓発ポスターを寄贈し、入賞作品を使った献血啓発活動を行う。(グッズの製作、広報への掲載)
献血協力企業を増やす	献血啓発ポスター製作	継続	献血協力企業	6月-			献血センターが率先で開催し、血液の知識から献血の重要性まで講演を行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法	
献血協力企業数を85%まで増加させる	複数回献血協力者確保	継続	年1回の献血者	4月-9月			内容(詳細に記載すること)
							1. 献血ポスターやポスターの制作、献血啓発活動の推進を図る。
							2. 献血啓発ポスターの制作、献血啓発活動の推進を図る。
							3. 献血啓発ポスターの制作、献血啓発活動の推進を図る。

⑤ その他

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
若年・若来年齢・若来者の献血者率を5%増やす	若年・若来年齢・若来者確保	継続	期間内実施協力団体	12月～3月		記念品を用意して事前PRをする。	期間内実施協力団体への事前PRを行い、期間内実施協力団体の献血者率を5%増やす。
電話による献血者率5%増やす	電話献血支援	新規	400mL可能な献血者	通年		電話による要請	400mL献血可能な献血者へダイレクトメールを郵送した方に再度電話要請して確保に努める。
冬期における協力者を5%増やす	書籍提供による献血推進促進(FM放送)	継続	県内在住者	11月～4月	24	地元FM局に書籍提供し、その番組中、献血情報・献血呼び掛けCMを放送する。	放送局 bayfm 毎週金曜日 12:18頃～5分番組で献血の血液センター名のクレジット及び40秒生CMによる献血情報の提供及び献血呼び掛け
	血液型別献血呼び掛けCM放送(コミュニティFM)	継続	県内在住者(若狭地区・東濃地区)	12月～2月	期間中毎日	コミュニティFM局によるCMを放送状況に応じて週替わりで毎日放送	地元FM局(かずさFM・市川FM)で放送状況に応じて血液型別の呼び掛けCMを週替わり(金12/ヶ)週替わりで毎日2回放送
	テレビCM放送	継続	主に県内在住の若年者層	12月～3月	150本以上	地元千葉テレビにて献血CMを放送する。	12月～3月中に合計150本以上のCMを放送。千葉BCオリジナルCM 及び 本社提供素材を利用

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

東京都 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
短大・大学生700人対象に複数回献血	若年層確保対策	継続	短大・大学生	3月	1	明治神宮	クロス施設協力のもと、献血への理解を深めてもらうことと、新規400mL献血者を確保し複数回へ繋げる
高校・大学・専門学校献血の新規・増強(10回)	若年層確保対策	継続	高校・短大・大学生	4～7月 10～12月	1	学校放地内	献血への理解を深めてもらうことと、新規400mL献血者を確保し複数回へ繋げる
新規献血者における400mL献血の推進と説明会(文化祭・学園祭・地域イベント会場等)	若年層確保対策	継続	10代～20代	通年		献血会場地	同上

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
子育て中の方が協力してもらえるよう2回増強	若年層献血者確保対策	継続	20代～30代	通年		献血実施場所すべて	行政との連携、HPやドナーLINE等による広報

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
新規・継続しを400箇所	協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各企業・事業所等	新規企業・中核団体の開拓を行う。
増強実施40箇所	協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各企業・事業所等	新規企業・中核団体の確保し、既存団体を増強する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
①400mL献血者の8%を複数回献血者(複数回献血者)に加入推進する。	複数回献血者確保対策(複数回献血者クラブ推進)	新規	400mL献血者	通年	常時	推進/イベント等	複数回献血者を推進し、必要時の依頼献血を継続していく。
②A型献血者の20%を複数回献血者(複数回献血者)に加入推進する。	複数回献血者確保対策(複数回献血者クラブ推進)	新規	A型献血者	通年	常時	推進/イベント等	複数回献血者を推進し、必要時の依頼献血を継続していく。
複数回献血者クラブの新規登録者3万人確保を目標とする。	複数回献血者確保対策(複数回献血者クラブ推進)	継続	複数回献血者クラブ未加入の献血者	通年		推進/イベント等	複数回献血者クラブ未加入の献血者に対し、複数回献血者クラブの推進を図る。平成21年度における東京都内の複数回献血者率の割合は28.9%であったが、複数回献血者クラブの割合は17.0%に留まっている。このため、継続して会員数増加に重点を置いて推進していくこととする。
献血者一人当たりの年間平均献血回数 2回以上を目標とする。	複数回献血者確保対策(複数回献血者クラブ推進)	継続	複数回献血者クラブ登録者	通年		推進/イベント等	複数回献血者クラブ登録者に対し、複数回献血者クラブの推進を図る。平成21年度における東京都内の一人当たり平均献血回数は1.7回であり、複数回献血者クラブの割合は17.0%に留まっている。このため、継続して会員数増加に重点を置いて推進していくこととする。
依頼に対する応答率25%以上を目標とする。	複数回献血者確保対策(複数回献血者クラブ推進)	継続	複数回献血者クラブ登録者	毎月	12	会員に対して献血依頼メールを配信する。	理由理由別・血液型別に、会員に対して献血依頼メールを配信する。併せて上記によりメール配信量の増加を図っていくことにより、安全な血液の安定的確保に資することを目的とする。
依頼に対する応答率10%以上を目標とする。	複数回献血者確保対策(複数回献血者クラブ推進)	継続	各献血ルームにおける一定期間未献血者(複数回献血者クラブ会員以外)	毎月	12	SMSシステムによりプッシュ通知・印刷し発送する。	SMSシステムによりプッシュ通知・印刷し発送することにより、安全な血液の安定的確保に資することを目的とする。
依頼に対する応答率30%以上を目標とする。	複数回献血者確保対策(複数回献血者クラブ推進)	継続	献血・開献血会場に未所した献血者	随時		SMSシステムによりプッシュ通知・印刷し発送する。	特に、街頭・地域等の移動献血所を中心に、定期的な献血への協力を依頼する。

⑤ その他

平成23年度の取組目標	事業名	実施・開催	対象者	実施時期	備考	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
献血者・献血ルームの確保	環境整備	継続	16～20歳	通年	常時	環境整備	充足感・満足感のある環境を整える
成分献血の35%以上を募集予約により確保する	成分献血予約	継続	成分献血可能者(特に、血介成分献血可能者)	通年		各献血ルームごと、両隣県別に予約枠を設け予約を受け付ける	特に、献血者クラブの機能による予約受付を強化することで、安定的な予約献血者確保に繋げる。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

神奈川県 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	実施・開催	対象者	実施時期	備考	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
県内2センターで毎月1枚程度の献血を実施	17才からの400mL献血キャンペーン	継続	県内高等学校の17才以上の男子生徒	平成23年4月以降開始	12校	県内高等学校(公立・私立)	県内高等学校の17才以上の男子生徒を中心とした高校生献血を実施する。
年間100人程度の受け入れを目指す	高校生を対象とした血液センター事業・産後等環境整備	新規	県内高校生	継続して、高校生が参加しやすい夏休み期間に1日10回開催	平日に10回開催	各献血ルーム・移植献血会場	県を通じ、県下の高等学校29校に募集(呼びかけ)をし、実施する。
横浜駅(横浜ジョイナス前)の献血会場では、赤十字とチームのエンブレムを記した天幕を掲出して歓迎し、献血への取り組みやすさを向上させ、1台あたり平均42.3人を45.0人に増加させる。	移植献血における献血PR	継続	県民および横浜マリノスファン(若年層層対象)	同時		Jリーグ横浜マリノスのホームタウンである横浜市内	献血会場に赤十字とチームのエンブレムを記した天幕を掲出する。また、横浜駅西口献血ルームでのキャンペーン期間中は、献血者クラブに選手サイン色紙や各種グッズを記念品として提供する等により連携して実施する。
平成23年度以降も継続的(長期)実施とし、献血への取り組みやすさを向上させ、若年層献血者のリピーターを定数以上に増やし、若年層献血者計302,212人の確保を目指す。	献血ルームにおける献血PR	継続	県民および横浜マリノスファン(若年層層対象)	同時		横浜駅西口献血ルーム	Jリーグ横浜マリノスの支援により、ルーム内に選手のサイン入りユニフォームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのスタッフ等で装飾することにより、ファンやサポーターの献血への取り組みやすさを向上させる。
ファン感謝デー、公式戦へ可能な限りファン感謝デー(公式戦1回以上)に際し、若年層献血者計302,212人の確保を目指す。	横浜マリノスの公式戦・ファン感謝デー会場における献血PR	継続	県民および横浜マリノスファン(若年層層対象)	公式戦・ファン感謝デー開催時	ファン感謝デー会場、公式戦・ファン感謝デー会場	横浜マリノスのホームグラウンドでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に実施。(平成23年度実績、ファン感謝デー1回・公式戦1回)	横浜マリノスのホームグラウンドでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に実施。(平成23年度実績、ファン感謝デー1回・公式戦1回)
横浜駅(横浜ジョイナス前)の献血会場では、赤十字とチームのエンブレムを記した天幕を掲出して歓迎し、献血への取り組みやすさを向上させ、1台あたり平均42.3人を45.0人に増加させる。	移植献血における献血PR	継続	県民および横浜ベイスターズファン(若年層層対象)	同時		横浜ベイスターズのホームタウンである横浜市内	献血会場に赤十字とチームのエンブレムを記した天幕を掲出する。また、横浜駅西口献血ルームでのキャンペーン期間中は、献血者クラブに選手サイン色紙や各種グッズを記念品として提供する等により連携して実施する。
平成23年度以降も継続的(長期)実施とし、献血への取り組みやすさを向上させ、若年層献血者のリピーターを定数以上に増やし、若年層献血者計302,212人の確保を目指す。	献血ルームにおける献血PR	継続	県民および横浜ベイスターズファン(若年層層対象)	同時		横浜駅西口献血ルーム	横浜ベイスターズの支援により、ルーム内に選手のサイン入りユニフォームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのスタッフ等で装飾することにより、ファンやサポーターの献血への取り組みやすさを向上させる。
ファン感謝デー、公式戦へ可能な限りファン感謝デー(公式戦1回以上)に際し、若年層献血者計302,212人の確保を目指す。	横浜ベイスターズの公式戦・ファン感謝デー会場における献血PR	継続	県民および横浜ベイスターズファン(若年層層対象)	公式戦・ファン感謝デー開催時	ファン感謝デー会場、公式戦・ファン感謝デー会場	横浜ベイスターズのホームグラウンドでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に実施。(平成23年度実績、ファン感謝デー1回・公式戦1回)	横浜ベイスターズのホームグラウンドでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に実施。(平成23年度実績、ファン感謝デー1回・公式戦1回)
川崎市内の献血会場では、赤十字とチームのエンブレムを記した天幕を掲出して歓迎し、献血への取り組みやすさを向上させ、若年層献血者計302,212人の確保を目指す。	移植献血における献血PR	継続	県民および川崎フロンターレファン(若年層層対象)	同時		Jリーグ川崎フロンターレのホームタウンである川崎市内	献血会場に赤十字とチームのエンブレムを記した天幕を掲出する。また、川崎駅献血ルームでのキャンペーン期間中は、献血者クラブに選手サイン色紙や各種グッズを記念品として提供する等により連携して実施する。
川崎駅(川崎フロンターレ前)の献血会場では、赤十字とチームのエンブレムを記した天幕を掲出して歓迎し、献血への取り組みやすさを向上させ、若年層献血者計302,212人の確保を目指す。	川崎フロンターレの公式戦・ファン感謝デー会場における献血PR	継続	県民および川崎フロンターレファン(若年層層対象)	公式戦・ファン感謝デー開催時	ファン感謝デー会場、公式戦・ファン感謝デー会場	川崎フロンターレのホームグラウンドでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に実施。	川崎フロンターレのホームグラウンドでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に実施。
移植献血者、南有馬ベルメールのチーム数(のぼり旗等)等で装飾したり、横浜駅献血ルームでのキャンペーン期間中は、献血者クラブに選手サイン色紙や各種グッズを記念品として提供する等により連携して実施する。	移植献血における献血PR	継続	県民および南有馬ベルメールファン(若年層層対象)	同時		南有馬市を中心とした南有馬地域の献血会場	移植献血者、南有馬ベルメールのチーム数(のぼり旗等)等で装飾したり、横浜駅献血ルームでのキャンペーン期間中は、献血者クラブに選手サイン色紙や各種グッズを記念品として提供する等により連携して実施する。
横浜駅献血ルーム(定数広域場所)では、赤十字とチームのエンブレムを記した天幕を掲出する一方で周辺企業と連携し、献血への取り組みやすさを向上させ、若年層献血者計302,212人の確保を目指す。	献血ルームにおける献血PR	継続	県民および南有馬ベルメールファン(若年層層対象)	同時		横浜駅献血ルーム(定数広域場所)	南有馬ベルメールの支援により、ルーム内に選手のサイン入りユニフォームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのスタッフ等で装飾することにより、ファンやサポーターの献血への取り組みやすさを向上させる。
横浜駅献血ルーム(定数広域場所)では、赤十字とチームのエンブレムを記した天幕を掲出する一方で周辺企業と連携し、献血への取り組みやすさを向上させ、若年層献血者計302,212人の確保を目指す。	横浜駅献血ルーム(定数広域場所)での天幕掲出	継続	県民および南有馬ベルメールファン(若年層層対象)	同時		横浜駅献血ルーム(定数広域場所)	南有馬ベルメールの支援により、ルーム内に選手のサイン入りユニフォームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのスタッフ等で装飾することにより、ファンやサポーターの献血への取り組みやすさを向上させる。

企画・実施者	実施内容	実施時期	回数	対象者	実施場所	実施内容	実施時期	回数	対象者	実施場所
ファン感謝デー、公式戦へ可能な限り(1回以上)参加し、来年度献血計画302,212人の確保を目指す。	福岡ベルマールの公式戦ファン感謝デー会場における両陣PK	継続	県民および福岡ベルマールファン等の若年層対象	公式戦ファン感謝デー開催時期	ファン感謝デー会場へ可能な限り参加	福岡ベルマールのホームグラウンドでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に実施。				
応募枚数 250枚	献血の絵ポスター展	継続	小中学生	夏休み期間中	1回	入賞作品の展示については、献血啓発ポスター大会および県内各十色献血館で実施				県下の小・中学校に募集し、入賞作品の展示を実施。また、優秀作品を掲載したカレンダーを作成し、献血啓発・生体、献血協力等に配布する。(平成21年度応募数195枚・22年度は200枚)
放送回数は52回、のべ聴取者数約36万人に対して献血の啓発を実施し、献血への関心を高めようとする。来年度献血計画302,212人の確保を目指す。	FM3コマのFM3コマFM3の番組を活用した広報	継続	一般県民・高校生・大学生のリスナー	毎週火曜日	52回					毎週火曜日14時からFM3のFM3放送局「FM3コマFM3」のFM3コマFM3スタジオおよび、献血会場等関係各所にて収録
参加校数18大学(25団体)、来場者5,000人	福岡ボランティアフェスティバル(ボラフェス)の開催	継続	一般県民(FM3コマFM3と連動しての企画によりリスナーも対象)	10月中旬(※土曜日)	1回	「献血みなとみらい」地区のイベント会場(予定)				大学生ボランティアクラブ・サークル・社会貢献団体(ライオンズクラブ等)・ボランティア・サッカーチームの協力(出席)をいただき、ボラフェス会場としての献血を県民にアピールする。平成22年度実績 参加校数15大学(22団体)、来場者5,000人
献血未実施校のうちボラフェス参加校が所属する学校では、新規記事掲載かけや、ホームページでの献血推進	ボラフェス参加校による自治体の献血推進	継続	献血実施大学 学生(※献血未実施校では、他の形での広報)	各自治体	随時	ボラフェス参加校の所属校				献血実施大学では、献血者が増えることを目標とする

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成23年度においては、平成22年度まで実施した国際補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成23年度の献血目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
参加者数 児童生徒200人、保護者150人	小中学生夏休み親子献血車	継続	小中学生と保護者	夏休み期間中	計20回開催	県センター(熊本)・県系西口ロームの2会場	献血についての知識や献血について理解を深めるためのスライド学習・献血見学を実施(平成22年度実績:児童生徒181人、保護者128人)
各市町村で1校程度実施	出前献血教室	継続	小学生	随時	可能な限り実施	県内小学校	献血についての知識や献血について理解を深めるためのスライドを合わせた講話を実施

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の献血目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
新規参加20社(団体)	献血推進企業団体等から関係団体(新規)紹介	新規	献血推進企業団体等	随時	—	—	献血推進企業団体等から、関係企業・団体を新たに紹介いただく。
10団地程度	各工業団地企業への献血協力依頼	新規	各工業団地の組合加盟企業	随時	—	県内各工業団地	各工業団地関係者の紹介状(書)を活用する等、献血に協力をお願いしたい(または実施しているが小規模)工業団地の企業に出席し、献血協力を呼び掛ける。あるいは、献血推進委を併せてもらう。
新規協力(協賛)法人100社	組合ビル等での合同献血	継続	組合ビル内テナント各企業	随時	—	献血推進委ビルおよび、周辺各企業	都庁での献血推進委ビル等、献血推進委所属のテナント企業が複数ある地域で、同一ビル内および周辺各企業に協力を呼びかける。
献血協力団体一覽1,000部作成、新規企業等20社(団体)の獲得を目指す。	献血協力団体一覽の作成と配布	継続	献血協力企業及び団体(特に新規企業)	7月前後	年1回	—	献血協力企業及び団体(官公庁を含む)に配布し、グループ企業等関係団体の紹介をいただく。
献血推進団体の企業への出席20団体程度	献血推進団体の企業への出席	継続	ライオンズクラブ、ローリークラブ、ソロボジスト協会等	随時	随時	献血推進団体の企業訪問	献血推進団体の例えの企業に出席し、献血推進の現状に関するスライド等を用いて、地域に根付いた献血推進活動への協力を依頼する。
記事先企業・団体掲載800社(団体)を目指す	新聞(経済)企業への掲載	継続	新聞掲載企業・団体のうち、移動献血車導入団地に対応可能な団体	随時	随時	献血推進時(付合せ時)	新聞掲載企業・団体(年間30~40社)のうち、移動献血車導入団地に対応可能な団体に、働きかけを行う。

④ 複数団献血協力者の確保対策

平成23年度の献血目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
40,000人の献血に対し年間委員会等予定 3,000人以上	県内で登録者の献血メーリングクラブ委員会事務局の活用	新規	メーリングクラブ登録者の献血推進者	7月~8月	年1回	神奈川県内での献血推進者としてのメーリングクラブ委員会事務局の活用	(C)付きはがき(かもめ)を活用し、効果的な委員の確保を行う。
年間応募予定 3,000人以上	新規献血推進者への献血協力依頼ハガキの送付	継続	新規献血(400ml)登録者	4月~3月	年45回	新規に登録いただいた献血推進者への献血推進協力依頼ハガキの送付	新規献血、企業献血等に合わせ、新規登録者(30,000人)に対しハガキによる献血依頼を行う。
50,000人の献血に対し年間応募予定 5,000人以上	献血推進者へ新規献血ハガキの送付	継続	全県献血推進者のうち献血推進予定の企業団体に所属している方で、献血推進場所に指定されている方	4月~3月	年20回	献血推進期間中に献血推進予定の企業団体に所属している方で、献血推進場所に指定されている方で、全県献血(400ml)登録者	献血推進期間中に献血推進予定の企業団体に所属している方で、献血推進場所に指定されている方で、全県献血(400ml)登録者
40,000人の献血に対し年間応募予定 16,000人以上	献血推進者へ企業献血への献血ハガキの送付	継続	全県献血推進者のうち、献血推進予定の企業団体に所属している方で、献血推進場所に指定されている方	4月~3月	年45回	全県献血推進者のうち、献血推進予定の企業団体に所属している方で、献血推進場所に指定されている方への献血ハガキの送付	企業、学校、の献血推進に合わせ、その団体に所属している全県献血推進者へハガキによる献血依頼を行う。
20,000人の献血に対し年間応募予定 2,000人以上	献血メーリングクラブ委員への献血要請	継続	献血メーリングクラブ委員	4月~3月	年30回	献血メーリングクラブ委員への献血要請(特に緊急要請が必要な場合)メーリングクラブ委員への送付	献血メーリングクラブ委員への献血要請(特に緊急要請が必要な場合)メーリングクラブ委員への送付
複数団献血協力者 70,000人の確保	複数団献血協力者確保用ポイントカード(「D」マーク)の発行	継続	全ての献血推進者	4月~3月	随時	複数団献血協力者確保用ポイントカード(Dマーク)の発行	献血推進者へポイント(特典)を付加することで、複数団献血協力者の確保を図る。
年間献血目標の23,000人に貢献	複数団献血協力者確保用献血車カードの発行	継続	全県献血協力者	4月~3月	随時	複数団献血協力者確保用献血車カードの発行	献血推進者へポイント(特典)を付加することで、複数団献血協力者の確保を図る。

⑤ その他

平成23年度の献血目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
新規委員4,000人の確保	新規献血メーリングクラブ委員の募集	継続	献血協力者委員	随時対応	随時	献血協会の献血者に、ポイントカード等で告知する	非接触型サイト特設ページを献血会場に設置し、さらなる委員確保を図る
年間 26,000人の献血 4,000人の確保	年末年始対策ハガキの送付	継続	全血及び成分献血推進者	全血 12/1~1/20 成分 12/26~1/5	年1回	年末年始対策として全血及び成分献血推進者へハガキを送付する	成分献血者へは、年末年始期間中の血小瓶確保対策として献血予約の依頼を実施
15,000人の献血 1,200人の確保	ゴールデンウィーク対策献血依頼(4/28~5/4)	継続	全血及び成分献血推進者	4/28~5/10	年1回	ゴールデンウィーク対策として全血推進者向けにハガキを送付する	ゴールデンウィーク前後に各1回、合計2回の依頼を行う
1回のキャンペーンで2,000人を確保し、年2回の協力を得られると想定し、のべ4,000人確保	新規献血者確保キャンペーン	継続	献血推進者	4~6月	随時	献血推進者	新入卒、新入社の献血推進者確保キャンペーン、各献血会場でも来場者等に呼びかける。
十分な数の企業(団体)の継続的実施と、新規(潜在)企業団体の増加50社程度を目指す	関係機関等関係者及び市町村献血推進者	継続	県民	年4/1~5/31、秋:10/15~11/30	年2回	県民	神奈川県庁とタイアップにより実施。けんづけちゃんキャラクター(猫)を使ったポスターを県内の公共施設・学校・献血協力団体・献血推進者等に展示する他、県庁のホームページに掲載等を実施する。
	関係機関等関係者及び市町村献血推進者	継続	関係機関等関係者及び市町村献血推進者	3月上旬	年1回	公的機関の会議室を借用して実施	行政担当者や献血推進者の連携を強め、配車計画作成への理解と協力を維持するために開催する

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

新潟県 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施方法	備考				
18～29歳の献血者構成比を30%以上にする	献血バス(バ)の取組	継続	大学生、専門学校生、高校生	4月～3月	6回	各大学、専門学校、高等学校等	前年度と同様に献血バスを配車して輸力を確保(平成22年度は34校で74台配車)、協力者には、次期献血バスで協力頂けるよう、献血バス(バ)のPRリーフレットを配布する。		
同上	献血PRイベント	継続	新潟県民	平成23年7月 平成24年1月	2回	ショッピングセンターまたは献血ルーム	県民40歳とタイアップして献血啓蒙活動を実施。若年層の人気のあるグッズを揃え、献血への理解と輸力を確保する。		
同上	献血普及委員会	継続	大学生、専門学校生、高校生等	4月～3月	12回	各大学、専門学校、高等学校等	県、市町村と協力して啓蒙活動の取組を行う。学校、学生、またはクラス単位で献血への理解を深めてもらう。DVD(ありが1つ、いい(賞)を1つ)、パワーポイント(献血の意義や献血の現状、献血者等)で献血の現状や必要性を訴える。献血の現状や準備等が記載された啓蒙リーフレットを作成して配布する。		
同上	献血推進活動への参加	継続	大学生、専門学校生、高校生	4月～3月	10回	イベント会場、街頭献血車等	学生ボランティア計30名を予定。イベント会場や献血会場等で献血のPR活動を実施。参加することで献血への理解を深めてもらい、献血輸力を確保する。		

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
50歳以上の献血者を3%増加させる		継続	50歳以上の県民	4月～3月			50歳以上の聴取率の高い地域ラジオ局を利用し、週末の献血会場の案内と献血協力への呼びかけを実施する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
新規献血協力企業・団体を開拓し、10社増やす。		継続	県内の企業及び団体	4月～3月	適宜	各事業所等	県、市町村と協力し、新規協力事業所を訪問して献血実施の要請を行う(詳細については県と協議を行い実施する)。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
複数回献血者(平成21年度32%)の割合を35%まで増加させる	複数回献血者確保対策	継続	年1回の献血者	4月～3月			1. 電子メールによる及びはがきによる献血要請 2. 複数回献血者クラブの会員募集強化 3. 前回の献血から6ヶ月間協力の無い方(ハム対象、約800名/月)へはがきで献血輸力を要請する。 4. 献血バス会場での協力者によりファイナル入りPR/リーフレットの配布や、新規加入会員へけんぽんグッズを提供するキャンペーン(7月～8月、1月～2月)の実施等により、献血の4,000名から7,000名まで会員を増やす。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

富山県 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
10代～20代の献血者を30%にする	献血セミナー	継続	短大・大学・専門学校生	4月～6月	6回	各学校	新入生対象に、400ml献血、血小板成分献血の必要性等を理解してもらい、献血輸力を確保する。
	ボランティアと連携するイベント	継続	特に若年層	6月、12月	2回	ショッピングセンター	告知用成償資料、はがき依頼、メール配信等により周知を図り実施する。
	いしよに献血キャンペーン	継続	短大・大学・専門学校生	4月～11月	10回	各学校	告知用成償資料、メール配信等により周知を図る。ボランティアによる両世代からの呼びかけを実施する。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
親子で40回の参加	親子献血	継続	小学生・保護者	7月～8月	2回	献血センター	献血の流れを説明し、献血バス/血液運搬車の体験乗車及び献血後、非常災害出しを実施する。
	献血啓蒙	継続	小学生・中学生・高校生	8月	1回	青少年自然の家	PRとして献血啓蒙を行う。親子・パワーポイントを使用し実施する。展示用パネルも活用する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
新規献血協力事業所10社増加(休職事業所の拡大)	献血協力企業推進	継続	事業所・団体	4月～3月		各事業所等	新規事業所の開拓、休職事業所の開拓等。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
複数回献血者を30%まで増加させる	複数回献血者確保対策	継続	年1回の献血者	4月～3月			①はがき及び電子メールによる献血要請 ②400ml献血者にキャンペーンカードを渡し、キャンペーン期間中に400ml献血に協力いただいた方に記念品を贈る。
複数回献血クラブ会員を1,500名にする	複数回献血者確保対策	継続	献血者	4月～3月			①会員募集イベントの実施 ②会員募集用のボランティア・PR、ポスターを作成する。 ③献血バス会場の会員募集を強化する。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
献血ルームで一日の平均血小板成分献血者を22名確保する	複数回献血協力者確保	継続	血小板献血者	4月～3月			①各小・事業所等への協力要請 ②電話・はがき・電子メールでの協力要請 ③キャンペーンの実施 ④平日での献血輸力を各事業所に依頼する。 ⑤電話等で献血輸力を確保するとともに、男性の55歳以上の方に献血輸力要請用文書及び献血輸力を確保して実施する。 ⑥セカ、マルチライナー、ホワイト等キャンペーンを実施する。